



経 由

議 長

政務活動費収支報告書

平成30年 4月 27日

伊豆市長 菊地 豊 様

会 派 名

代表者氏名 鈴木 正人



伊豆市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第6条第1項の規定に基づき、平成29年度分の政務活動費に係る収支状況を次のとおり報告します。

- | | |
|-----------|--|
| 1 交 付 額 | 90,000 円 |
| 2 支 出 額 | 13,940 円 |
| 3 収支差引額 | 76,060 円 |
| 4 経理責任者氏名 | 鈴木 正人 |
| 5 経費の支出明細 | 平成29年度分政務活動費収支決算書(別添)のとおり |
| 6 事業の成果 | 議会活動に必要な知識をセミナーで得られた。
*別添 調査研究等報告書 参照 |

別添（様式第8号関係）

平成29年度分政務活動費収支決算書

収入

区 分	金 額
交 付 額	90,000 円

支出

区 分	金 額
1 調査研究費	0 円
2 研 修 費	13,940 円
3 資料作成費	0 円
4 資料購入費	0 円
5 要請・陳情活動費	0 円
6 会 議 費	0 円
7 広 報 費	0 円
8 広 聴 費	0 円
9 事 務 費	0 円
10 人 件 費	0 円
計	13,940 円

支 払 伝 票

平成29年 11月 27日

会 派 名	鈴木 正人	代表者印		経理責任者印	
支 出 金 額	¥ 9, 0 2 0 -				
支 出 科 目	摘 要				
1	調 査 研 究 費	シンポジウム参加旅費			
2	研 修 費	修善寺駅～東京駅			
3	資 料 作 成 費	(伊豆箱根鉄道、東海道新幹線 往復)			
4	資 料 購 入 費	・ シンポジウム名称			
5	要 請 ・ 陳 情 活 動 費	・ 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 に向けたシンポジウム」			
6	会 議 費	・ 開催地：ベルサール東京日本橋			
7	広 報 費	・ 開催日：平成29年11月27日			
8	広 聴 費	・ 主催：東京都・東京都議会			
9	事 務 費				
10	人 件 費				
支 出 先	伊豆箱根鉄道 (株) 修善寺駅				
支 出 年 月 日	平成29年 11月 27日				
支 払 番 号	1	出納簿記入印		出金確認	
特 記 事 項					

領収書は裏面添付

領 収 書

金 額 9,020円





但し 乗車券類代として

(消費税込み)

29.11.27
No. 8988

伊豆箱根鉄道株式会社
修善寺駅1発行

調査研究等旅費明細

会 派 名	鈴木 正人			代表者印	
参加者氏名	鈴木 正人			経理責任者印	
				支出科目	2
用 務 先	東京日本橋			支払番号	1
実 施 日	平成29年11月27日～ 平成29年11月27日			出納簿記入印	
目 的	東京2020大会気運醸成の為の情報収集				
概 算 額		精 算 額		差 引 額	計算確認印
9,020 円		9,020 円		0 円	
月日	発 着	路 程	路 線	運 賃	宿泊料
11/27	修善寺～三島	km	伊豆箱根鉄道	} 9,020 円	1泊目(甲・乙) 円 2泊目(甲・乙) 円
"	三島～東京		東海道新幹線		
"	東京～三島		"		
"	三島～修善寺		伊豆箱根鉄道		
	～				
	～				
	～				
	～				
	～				
	～				
概 算 額				9,020 円	
精 算 額				9,020 円	
過 不 足 の 理 由					
備 考					




調査研究等報告書

平成29年 11月 30日

実施日時	平成29年11月27日(月) 14時00分 ～17時30分
参加者氏名	鈴木 正人
用務先	東京都中央区日本橋 ベルサール東京日本橋
対応者	*主催：東京都・東京都議会
目的・内容	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたオールジャパンの気運醸成のため、東京都他が主催し、競技開催都市のみならず、各自治体で東京2020大会と関連したイベント等を企画・運営する際の参考となる参画プログラムの事例紹介などの情報提供。 また、オリンピック他のパネリストによるディスカッションにて大会開催に関する課題・認識の共有など。
成果・所感	全体を通じて、東京2020大会成功に向けての気運醸成を図る為の「キックオフ」イベントであると感じた。 大会組織委員会からは、2016年8月から開始している「東京2020参画プログラム TODAY」が紹介され、現時点で全国で認証件数は「20,000件」、参加人数は「500万人」であり、伊豆市においても「伊豆市げんきプロジェクト」がこれにあたる。 また、今大会のマスコットの選考は、将来を担う全国の小学生の学級単位による投票で決められることも発表され、気運の醸成に一役買える取り組みの一つと感じた。 そして、文化芸術パフォーマンスでは、全盲のソプラノ歌手である橋本夏季さんによる歌唱、健常者と障害者が一緒に踊るパフォーマンスなど、パラリンピックへの理解と気運醸成にも力が入っており、真に「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の考えが尊重される大会にしなければならぬと感じた。

支 払 伝 票

平成29年 12月 15日

会 派 名	鈴木 正人	代表者印		経理責任者印	
支 出 金 額	¥ 4, 9 2 0 -				
支 出 科 目	摘 要				
1	調 査 研 究 費	セミナー受講旅費 修善寺駅～静岡駅 (伊豆箱根鉄道、東海道新幹線 往復) ・セミナー名称 「平成29年度 静岡県成年後見制度利用促進セミナー」 ・開催地：静岡商工会議所 静岡事務所会館 5階ホール ・開催日：平成29年12月15日 ・主催：静岡県・社会福祉法人静岡県社会福祉協議会			
2	研 修 費				
3	資 料 作 成 費				
4	資 料 購 入 費				
5	要 請・陳 情 活 動 費				
6	会 議 費				
7	広 報 費				
8	広 聴 費				
9	事 務 費				
10	人 件 費				
支 出 先	伊豆箱根鉄道(株) 修善寺駅				
支 出 年 月 日	平成29年 12月 15日				
支 払 番 号	2	出納簿記入印		出金確認	
特 記 事 項					

領収書は裏面添付

領 収 書

金 額 ￥4,920円

但し 乗車券類代 として

(消費税込み)

29.12.15
No.9245

伊豆箱根鉄道株式会社
修善寺駅1発行

様式第10号 (第6条関係)

調査研究等旅費明細

会 派 名	鈴木 正人			代表者印	
参加者氏名	鈴木 正人			経理責任者印	
				支出科目	2
用 務 先	静岡市葵区			支払番号	2
実 施 日	平成29年12月15日～ 平成29年12月15日			出納簿記入印	
目 的	セミナー受講 (静岡県成年後見制度利用促進セミナー)				
概 算 額		精 算 額		差 引 額	計算確認印
4,920 円		4,920 円		0 円	
月日	発 着	路 程	路 線	運 賃	宿泊料
12/15	修善寺～三島	km	伊豆箱根鉄道	4,920 円	1泊目(甲・乙) 円 2泊目(甲・乙) 円
"	三島～静岡		東海道新幹線		
"	静岡～三島		"		
"	三島～修善寺		伊豆箱根鉄道		
	～				
	～				
	～				
	～				
	～				
	～				
概 算 額			/	4,920 円	
精 算 額				4,920 円	
過不足の理由					
備 考					

調査研究等報告書

平成29年 12月 20日

実施日時	平成29年12月15日(金) 13時00分 ～16時30分
参加者氏名	鈴木 正人
用務先	静岡商工会議所 静岡事務所会館 5階ホール
対応者	*主催：静岡県、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
目的・内容	<p>高齢化の進展、認知症患者の増加により、権利擁護の観点から成年後見制度の必要性が高まっており、その現状と課題を整理しておく必要がある。</p> <p>【1】基調講演：「成年後見制度の利用の促進に関する法律」と「成年後見制度利用促進基本計画」について</p> <p>【2】基調報告：「地域連携ネットワークとは何か？」 －地域での権利擁護実践につなぐために－</p> <p>【3】シンポジウム：「静岡県における成年後見利用促進をどのように描くか～市民後見推進体制から地域連携ネットワーク・中核機関構築へ～」</p>
成果・所感	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行は勿論、認知症患者の増加も激しくなっていく。 *平成37年の認知症患者の推計人数：675万人～730万人(全国) それに伴い、成年後見制度の利用者数も増加しているが、「見守り」対応に必要なケース、積極的な介入・支援が必要なケースといった「地域としての対応」が求められている。 ・成年後見制度の利用促進には、社会全体で認知症患者や障害者を支え、自立した生活をサポートする地域の体制、即ち「地域連携ネットワークの構築」が重要である。 ・介護・福祉の機関は勿論、行政(自治体・行政書士など)、司法(裁判所・弁護士・司法書士など)、そして住民の参画・連携を促すとともに、中核機関(利用者のワンストップ相談窓口)のあり方を「社会福祉協議会」等がリーダーシップを取って行くことが望ましいと感じた。 ・今後も制度の周知を含め、社会への理解を深めてもらいたい。